

右側が白洲次郎の墓。正子の墓は少し小さい。そばに生前、正子が植えた桜の木が残る



白洲次郎の眠る心月院

次郎は「葬式無用、戒名不要」の遺言を残したが、二人が生きた証として正子が自分の墓石とともに造った。墓は五輪塔をかたどったデザインで正子が決めた。墓石に戒名はなく、次郎の墓は不動明王、正子の墓には十一面観音を表す梵字が一文字刻まれている。白洲次郎アームもあって、「参拝者が以前に比べて3倍以上に増えている」と児島正龍住職。墓石の脇に置かれた記名帳を見ると、関東から訪れる人も多い。

心月院本堂で「白洲家三代の軌跡展」が11月末まで開かれている。JR・神戸電鉄、三田駅より西へ徒歩15分。問い合わせは心月院(079・562・4310)。

日本国憲法誕生に立ち会う



はんしんeyes

写真・文 山田哲也

51

吉田茂首相の側近として、日本国憲法誕生に立ち会い、戦後復興に尽力した白洲次郎(1902-85)。関連書籍が続々出版されブームになっている。実は、白洲家と阪神間のゆかりは深い。白洲家は儒学者として三田藩主・九鬼家に代々仕えてきた。



地域再見

地域再見

白洲次郎は、綿貿易「白洲商店」を興して成功した父文平の次男として若屋で生まれた。15歳のころ、現在の伊丹市春日丘4に移った。建築道楽だった文平が建てた自宅は白洲屋敷と呼ばれ、約4万坪の敷地には美術館もあった。昭和恐慌で会社は破産し、現在は住宅地になっている。

白洲家をしのぶものは阪神間に残っていないが、九鬼家の菩提寺、心月院(三田市西山2)に白洲家代々の墓がある。次郎と妻・正子(随筆家)もここに眠っている。